

Advanced Doctoral Program in  
**Global Resource Management**

Doshisha University

多文化共生社会の実現に挑む  
グローバル・リーダーの養成をめざして

# 社会で活躍する GRM修了生 一問一答



2012年度から始まったGRMプログラム。これまで数多くの学生が濃密な経験を積むことで、グローバルリーダーとしての力を磨き、社会へと羽ばたいていきました。活躍するフィールドは多種多様。現在、世界中の様々な舞台上で活躍する修了生たちの声をご紹介します。

## Q1 GRMに参加した動機は何ですか。

**A** 多国籍な環境で実践的なことを学べるGRMの履修は有意義に違いないと考え、参加を決めました。

(土居 謙太 さん)

GRMプログラムが多様な機会を与えてくれたからです。

(Dipak Gaire Sharma さん)

GRMの理念に共感したことが参加のきっかけです。

(柳 霄 さん)

ヒューマンリソースマネジメントに興味があったからです。

(高木 阿久斗 さん)

社会において良きリーダーとなるため、GRMプログラムは次世代のリーダーにとって重要である包括的な知識を学ぶことができると思ったからです。

(Chayadit Pumaneratkul さん)



## Q2 今の進路を選択した決め手は何でしたか。

**A** 企業訪問・見学や企業研究者の方々との交流を通して、博士学位取得者の活躍の場は民間企業にも多くあると考えたのが決め手です。

(土居 謙太 さん)

GRMのインターンシップ経験です。学術機関ではなく民間企業での経験はとても貴重です。

(Dipak Gaire Sharma さん)

不動産会社の最大手として、発展途上国の開発や貧困削減に力を入れている点に魅力を感じ、就職を決めました。

(柳 霄 さん)

経営に興味があったからです。

(高木 阿久斗 さん)

博士学位取得者が研究分野で学び成長できる機会がある企業だと思ったからです。

(Chayadit Pumaneratkul さん)

## Q3 企業で働いていてGRMプログラムを学んでよかったと思うとき、役立ったときはどんなときですか。

**A** 近年はGRMで取り上げられる課題への理解が求められます。本来の研究生活では学び得ない分野なので、GRMの有難味を感じます。

(土居 謙太 さん)

GRM科目としてインターンを実施した会社に就職することができました。

(Dipak Gaire Sharma さん)

仕事では、多くの利害関係者と連携しながら案件を進めるので、GRMで学んだチームワーク力が役に立っています。

(柳 霄 さん)

GRMに参加することにより、自分の考えを他人に自信をもって発表できるようになります。

(高木 阿久斗 さん)

対人コミュニケーションスキルです。GRM履修生との交流を通して、様々な異なる文化について学びました。

(Chayadit Pumaneratkul さん)



## 社会で活躍する GRM修了生 一問一答



### Q4 今後、社会で博士学位取得者の活躍の場が広がることにどのような展望を持っていますか。

A 幅広い分野に興味を持ち討議できる博士学位取得者は大いに求められる人材になると思います。

(土居 謙太 さん)

博士学位取得者が企業で働くことで、お互いが学ぶ環境を作ることができると思います。

(Dipak Gaire Sharma さん)

博士学位取得者は、知識や能力を活かして自ら独立し、多元化社会に貢献できるリーダーになっていただきたいです。

(柳 霄 さん)

高いリテラシーにより要領よく仕事が進むでしょう。

(高木 阿久斗 さん)

博士学位取得者として、新しく知識を得て、それを社会に広げていくことができると思います。

(Chayadit Pumaneratkul さん)

### Q5 GRMプログラムへの参加を迷っている後輩たちへ一言メッセージをお願いします。

A 履修を強く勧めます。グループ討議などを通して各国各領域で活躍する貴重な人脈も生まれます。将来、GRM履修生の間で企業の垣根を超えたプロジェクトもあるかもしれないと感じます。

(土居 謙太 さん)

各分野で国際的なネットワークを広げることができ、貴重な見識を得ることができました。

真剣に参加を検討する価値のあるプログラムだと思います。

(Dipak Gaire Sharma さん)

迷ったら、行動せよ! Just do it!

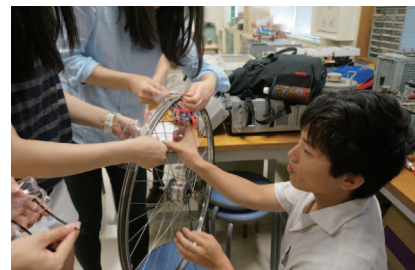
(柳 霄 さん)

気に入った企業や団体があれば、インフォーマルなインターンシップができます。

(高木 阿久斗 さん)

個人の成長に繋がる経験を求めている人は、是非GRMプログラムにチャレンジをし、社会のために良きリーダーとなってください。

(Chayadit Pumaneratkul さん)



## 回答者



博士学位取得:2017年度  
研究科・専攻:理工学研究科 電気電子工学専攻

土居 謙太 さん

就職先

株式会社アルバック(真空装置メーカー)



博士学位取得:2017年度  
研究科・専攻:理工学研究科 情報工学専攻

Dipak Gaire Sharma さん

就職先

株式会社自律制御システム研究所(ドローンメーカー)



博士学位取得:2017年度  
研究科・専攻:商学研究科 商学専攻

柳 霄 さん

就職先

外資系不動産開発会社



博士学位取得:2017年度  
研究科・専攻:理工学研究科 応用化学専攻

高木 阿久斗 さん

就職先

株式会社プランテリア(造園業)



博士学位取得:2018年度  
研究科・専攻:理工学研究科 機械工学専攻

Chayadit Pumaneratkul さん

就職先

ダイキン工業株式会社(タイ)

# 「グローバル・リソース」の視点から多文化共生の課題に挑む

同志社大学大学院が実施するグローバル・リソース・マネジメント(GRM)プログラムは、「グローバル・リソース・マネジメント」という文理融合の視点で、今日、最も困難な状況にある国から新興国までを対象に、強靱な精神と高度な倫理観を持って活躍していくグローバル・リーダーの養成を目指すものです。

※本プログラムは、文部科学省が推進する「博士課程教育リーディングプログラム」の複合領域型(多文化共生社会)に採択され、2012年度から2018年度までの7年間、国の補助金によって運営してきました。

## グローバル・スタディーズ



## Global Resource Management

グローバル・リソース・マネジメント

## インフラ科学／資源・エネルギー科学



## 本プログラムが養成する人材

- ① 生存の危機に瀕する過酷な状況にある人々に寄り添い、共に学ぶことで困難を打開する志を持つ
- ② そのために必要な人文・社会科学と自然科学の諸領域を統合知として習得する
- ③ 文理融合の知を基に、「公正」とは何かを意識し、宗教間・民族間の共生を志向する
- ④ 「公正」の観点から、地球的課題としての困難の発生を抑制し、また発生した困難からの復興と発展に取り組む
- ⑤ 発展の途上にある新興国においては、発展の持続性と格差の縮小に取り組む
- ⑥ 新興国での取り組みや成果を日本に還元し、これらの諸国と戦略的パートナーシップを築いていく

# 本プログラムの特色

## 1 人々と共に切磋琢磨し、困難に挑むGRMリーダーへ

GRMリーダーとは、現地のエネルギーを肌で感じ、あるいは現地の人々の困難に寄り添い、人々と共に活動する中で得た知見と経験を、日本そして世界の発展へとつなげる先導者を意味しています。



## 3 文理融合の知識を身につけ、実践する

資源・エネルギーに関わる高度な自然科学・理工学的知の体系と、多文化共生に関わる人文・社会科学の体系的知を統合した、「文理融合」による博士課程教育プログラムを構築し、提供します。現代世界の閉塞的状况を突破するために、人間生活の物質的基盤(インフラストラクチャー)、社会的基盤、精神的基盤の3領域を統合的に扱う新領域の創造を目指しています。

なぜ、文理融合か インフラ整備ができるマネージャー、政策の立案実行ができるエンジニア

学位取得者(Ph.Dホルダー)に対する社会での期待値を考えると、人文・社会科学のみ、あるいは理工学のみ知識しか持たない者では、その活躍の場は限られます。理工学の知識をもちつつマネジメントや社会貢献を考えていかなければ、グローバル展開を果たした企業であっても異文化との共生を実現するリーダーとはいえません。逆に、人文・社会科学について深い知見を有していても、現実の人間社会の基盤となるインフラストラクチャーや資源・エネルギーについての知見をもたなければ、人類社会の安定には寄与できないでしょう。世界資源の公正な分配と運用という視点から文理融合の教育を実践し、履修者が将来において多文化共生社会の実現に向けて進んでいけるようバックアップします。

## 2 資源を切り口に、世界の問題を考える

現代社会が抱える様々な問題の背景には、資源やインフラ(=リソース)の不均衡があります。このリソースをいかに安定的に分配するか、いかに持続可能な発展の可能性を探るかという視点から多文化共生の可能性を追求します。

本学は一神教間の宗教対話について、日本で最高水準の研究実績を誇っています。一神教学際研究センターでの実績をもとに、宗教間の共生を多文化共生社会の課題として重視する点もGRMの特色です。

グローバル・リソース・マネジメント

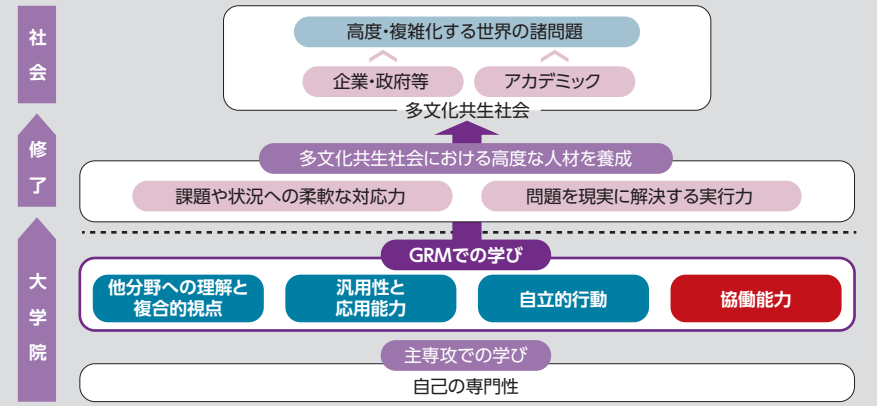
- 福祉国家の限界
- 突発的 巨大災害
- 産業構造の閉塞状況
- 戦争・災害
- 宗教・民族に関する紛争
- 貧困の格差

国家の枠組みを前提にできない現実において多文化共生の可能性を追求することが喫緊の課題

現代社会の抱える様々な問題の解決には、資源・エネルギー・インフラの開発と再分配が必要

多文化共生の課題群を解決に導く  
グローバル・リーダーを養成

### 特色あるプログラムでグローバルに活躍するリーダーを養成

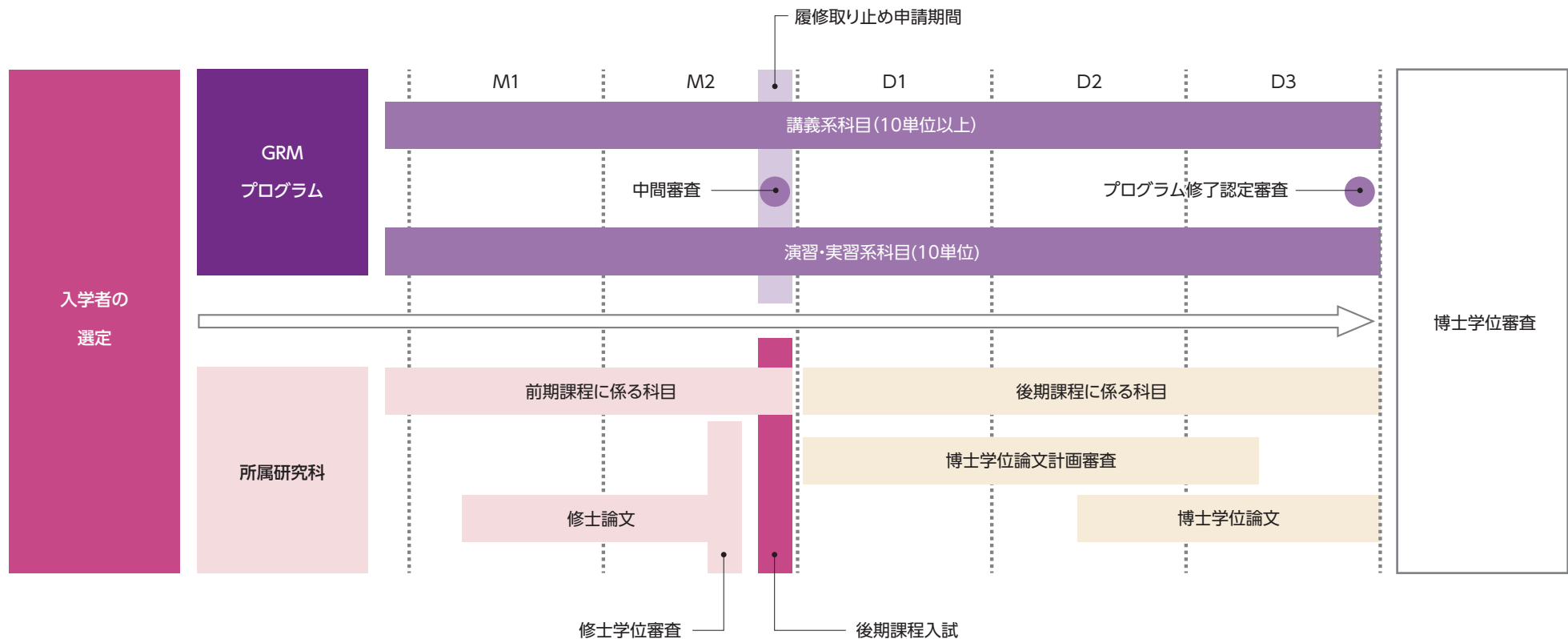


# プログラム全体像

## GRMプログラムの位置づけと構造

GRMプログラムは、博士課程の前期課程と後期課程を一貫した5年間の追加型大学院教育プログラムです。所属の研究科・専攻の教育課程とは別に履修し、履修生は所属の研究科での単位修得に加え、GRMプログラム修了に必要な単位(20単位以上)を修得します。所定の単位を修得し、プログラムの修了を認定された履修生の学位記には、博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」の修了を付記します。

5年間の教育プログラムですが、5年の履修を義務付けるものではなく、プログラムの履修を途中でやめることも可能です。例えば前期課程だけ履修することも可能で、所定の中間審査科目の単位を修得した後、履修をやめた履修生には、中間認定証を発行します。



# プログラム全体像

## プログラムの概要と履修の進め方

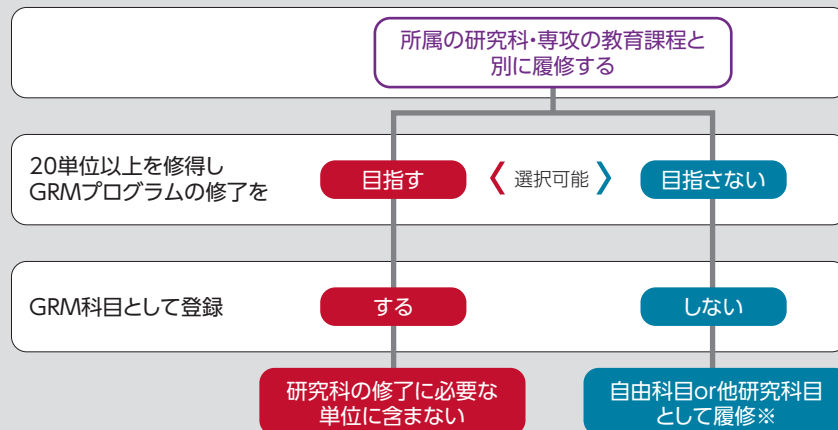
### GRMプログラムの概要

- 専門職大学院を除く全研究科・専攻の大学院生が履修できるプログラムです。
- GRMプログラムは、履修生の選抜試験を行わず、誰もが履修できます。
- 修得したGRMプログラムの単位は、所属の研究科の修了に必要な単位に算入されません。
- **授業は英語で行われます。**

### 履修の進め方

- GRMプログラムの修了を目指す履修生は、所定の様式でGRMプログラム履修生としての登録を行います。
- GRMプログラムが設置する科目の多くには、科目ナンバリングとprerequisite(履修条件)が付されており、体系的・段階的に履修を進めます。例えば科目ナンバリングGRM701の科目を履修するためには、GRM601が履修済みでないといけません。
- GRMプログラムの修了を目指す学生も履修でき、修得した単位の取扱は各研究科によって異なります。
- GRMプログラムの修了を目指すか目指さないかは、科目の登録時に選択します。
- いくつかの科目を履修した後も、GRMプログラム履修生としての登録が可能です。その際、これまで修得した単位はGRMプログラムの修了に必要な単位として算入し、所属研究科の修了に必要な単位との重複算入はしません。

### 自らの志向にあわせて選択可能な柔軟な履修フロー



※ GRMでの修得単位を修了に必要な単位に含むかどうかは、研究科・専攻によって扱いが異なります。

## 産学官にわたる世界中の連携先

### 世界中に広がる強力な産学官連携網が可能にするGRMならではの学び

実際の現場で様々な実践を通して、多文化共生を実現できる能力を養う機会を提供します。海外大学、国内外の企業、国際機関などと連携し、学生に留学、インターンシップ、フィールドワークなどの機会を提供するほか、講師の招聘などを行います。

#### 学術機関

フィリピン大学 テヘラン大学 キルギス民族大学 総合地球環境学研究所 フランス社会科学高等研究院  
エコール・セントラル ハサヌデイン大学 中東工科大学 ハノイ工科大学 キングモンクット工科大学  
ザンビア大学 アディスアベバ大学 モントリオール理工科大学 ハマド・ビン・ハリーフア大学  
リュブリャナ大学 ストラスモア大学 アルジャジーラ研究センター

#### グローバル企業

ダイキン工業(株)  
Country Garden(中国)  
広州トヨタ自動車有限会社(中国)  
三菱商事(株)  
(株)三菱総合研究所  
日新電機(株)  
(株)堀場製作所

#### 国際機関・政府機関

世界銀行 国際連合教育科学文化機関(UNESCO)  
国際連合開発計画(UNDP) 国際協力機構(JICA)  
日本貿易振興機構(JETRO) 国際連合工業開発機関(UNIDO)  
ベオグラード国際政治経済研究所(IIPE)  
在スロベニア日本大使館  
自動車技術総合機構交通安全環境研究所 電力中央研究所  
日本原子力研究開発機構 宮古島市

※ 上記以外の連携実績もあります。

#### 連携先からのインターンの例

- UNIDO東京事務所
- ダイキン工業株式会社(タイ)
- 株式会社堀場製作所



## GRMのカリキュラム

GRMのカリキュラムは、最高学位たる博士号取得者が広く社会で活躍できるようになるための基盤が形成されるように作られています。すなわち、幅広い視点や考え方をもち、任務遂行にあたり自分自身で行動を規定でき、他者との協働によって問題を解決できるようになることを目的としています。博士課程の前期課程に配当されている科目だけの履修でもその基盤が身に付くように設計されています。

### 講義系科目

大学院の専門科目は学部での科目に比べてますます細分化され、深い内容となっていきます。一方、現実世界の問題はますます複雑化しており、解決のためには多面的なものの見方や柔軟な思考が求められています。GRMの講義では「資源管理」を軸としての物事の多面的なとらえ方や自分の専門とは異なる問題解決手法を学ぶことで、こうした幅広い視点や思考法を獲得していくことを目指します。

#### 前期課程

##### ● Resource Management for Coexistence and Cultural Diversity (GRM601)

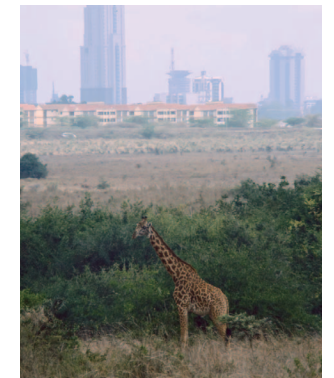
GRMで一番初めに履修する科目です。「資源」の適切な開発や管理によって諸問題を解決し共生社会の実現を目指すという、GRMの理念を共有します。講義では「資源」についての考え方を示し、そこから起こりうる問題について説明を行います。

##### ● Capacity Development for Coexistence and Cooperative Works (GRM602)

対話や議論、自己表現といった、協働の為の基礎能力を身に着けるための科目です。さらにその前段階として、自分自身について知るための自己診断と社会に求められる汎用的な能力・態度・志向の測定もこの科目に含めます。

#### 後期課程

- Physics in daily life (GRM701)
- Introduction to Social Science and Humanity (GRM702)
- Introductory Infrastructure Engineering (GRM730・文系学生向け科目)
- Introductory Earth and Environment Science (GRM731・文系学生向け科目)
- Introductory Laboratory of Infrastructure Engineering (GRM732・文系学生向け科目)
- Introductory Qualitative Reserch Methods (GRM733・理系学生向け科目)
- Introductory Quantative Reserch Methods (GRM734・理系学生向け科目)
- Introductory Global Studies (GRM735・理系学生向け科目)





# GRMのカリキュラム

## 演習・実習系科目

社会では能動的に行動でき、すべきことを自分で規定できることが求められます。一方、複雑高度化する問題の前では、たとえどのような人間でも一人で全てのことを行うことはできません。よって、専門性の異なる複数の人間がチームを組んで問題解決にあたる必要があります。GRMでは、自分のことは自分で決めながらも他者と協働できる能力を身に付けるためにグループワーク演習を何度も行います。

### 前期課程

#### ● Group Work Practice I (GRM650)

最初に履修する実習系科目です。グループワークを通して、複合的問題に対する取り組み方を実例から学び、体得します。ある問題には、様々な切り口がある点を講義で学び、現地見学を通じて現場の状況を知ること重点を置いています。

#### ● Group Work Practice II (GRM690)

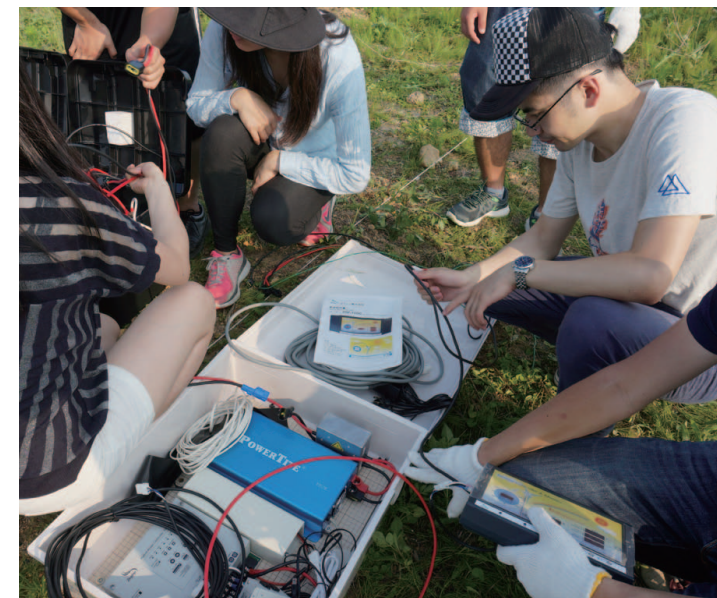
博士前期課程の最終セメスターで履修する科目です。グループワークによって、プロジェクト立案から情報収集や課題の設定、解決策の構築までを一連の手順として学びます。この科目は、GRMプログラムの中間審査チェックポイントとしての機能を兼ねます。

### 後期課程

#### ● Group Work Practice III (GRM750)

#### ● Group Work Practice IV (GRM751)

#### ● Group Work Practice V (GRM790)



# Topics

## Topic 1 キャリアパスへの取組

### 視野が広がるから、出口も無限大。進路とキャリアパスへの取組

GRMプログラムでは、汎用性と応用力を備えた基礎能力の涵養を行い、分野や職種に縛られずに活躍できる人材育成を目指します。

また、インターンシップに係る経費の一部も補助するなど、将来のキャリアへ繋がる指導やサポートを行います。過去には、GRMプログラムの修了生をゲストスピーカーとして招き、博士学位取得者のキャリアパス選択や、進路決定に至るまでについての貴重な声を聞く機会を設けています。履修生が、博士学位取得者としてのキャリア開発について、より深く考え、意識付けを行う場となり、実際の就職活動に活かしています。

こういったGRMプログラムのキャリアパスへの様々な取組みは、アカデミック・ノンアカデミック分野を問わず、履修生が博士学位を取得した後のファーストキャリアの選択肢を拡大してきました。その成果は、文部科学省からも高く評価されています。

#### GRMリーダーが活躍する進路

- 産** グローバル展開する企業で、文化摩擦による争議・衝突を未然に防ぐマネジメント力を備えたエンジニア・マネージャー・経営者  
異文化の社会を積極的に市場として取り込むためのイノベーション戦略を描ける人材
- 官** 多文化共生の現場を熟知しつつ、日本独自の援助・開発・紛争調停・平和構築をリードする公務員・政府系機関職員
- 学** 現代のグローバル・イシューズに対する現実的分析能力を持ち、既成概念にとらわれず新たな地平を拓く先端的研究者
- 国際機関** 国連の持つ調停力の限界を打開する新たな知見と判断力を備え、紛争抑止と平和構築、復興に貢献する国際公務員

#### 就職実績

- 大手電機メーカー
- 外資系濾過・固液分離装置メーカー
- 大手空調機器メーカー
- 外資系大手不動産開発会社
- 外資系大手資源開発会社
- 産業用ドローン製造販売会社
- 国立研究開発法人
- 大手分析・計測機器総合メーカー
- 大手産業・研究機関向け真空装置メーカー
- 造園関連企業
- 私立大学専任教員
- 外資系医療専門コンサル
- 海外大学研究員
- 独立行政法人
- 私立大学外国人留学生助手
- 私立大学特別任用助手

## Topic 2 GRMコモモンルーム

GRMは、今出川校地志高館2階、京田辺校地訪知館1階のそれぞれに「GRMコモモンルーム」を設置しています。コモモンルーム内に備え付けられたテレビ会議システムで両校地のコモモンルームを接続し、遠隔講義を可能にすることで文系/理系学生の共修環境を実現しています。コモモンルームは、GRMプログラム履修生だけが利用できる空間で、室内のパソコン・電子黒板・コピー機・実験工具・図書資料などを自由に使用でき、講義以外にも自習や学生同士のコミュニケーションの場として活用されています。また、コモモンルーム内にテレビ会議システムには多拠点接続ユニット(MCU)を導入しており、両校地間だけでなく学外を含む複数拠点同時接続が可能です。これにより、他大学との合同事業の事前学習として実施する学外協力者の講義に参加できるだけでなく、履修生が他大学の学生とのプロジェクトを企画・推進していく拠点ともなっています。



## GRMの正課外活動

GRMプログラムは、博士学位取得者が社会で広く活躍する場を創出・拡大できるよう、キャリア支援の一環として、博士課程の後期課程に在籍するプログラム履修生を対象にインターンシップ活動経費補助を行います。また、正課外活動の一環として、各界で活躍する著名な方々を招いて講演いただく機会を設けています。他にも、他大学との合同事業実施などの実績があり、学生同士の切磋琢磨による人的交流ならびに学生交流に効果を挙げています。

### インターンシップ

国内・海外の企業や国際機関などでのインターン実習を通して、社会で即戦力として活躍するため、キャリア形成に資する知識や技能など種々の能力を身につけます。

#### ■ 主なインターンシップ先(一部)

- 三菱商事ベオグレード駐在事務所
- UNIDO東京事務所
- 株式会社自立制御システム研究所
- Country Garden(中国)
- 独立行政法人自動車技術総合機構交通安全環境研究所
- ダイキン工業株式会社(タイ)
- 電力中央研究所
- 西日本技術開発株式会社
- 株式会社堀場製作所

### 過去の講演者(一部)

※職名は講演当時のもの

- 緒方貞子氏(国際協力機構(JICA)特別顧問)
- アフメト・ダウトオール氏(トルコ前首相)
- 西田厚聡氏(東芝会長)
- フサイン・アッパーシー氏  
(チュニジア労働総同盟事務総長)
- 後藤裕史氏(国連事務局政務局  
安全保障理事会部官房課政務官)



### 他大学との合同事業

フィリピン大学、ハマド・ビン・ハリーフア大学、リュブリャナ大学、広島大学など他大学の学生と共同で行う演習、フィールドワークや国際会議もあります。



## GRMプログラム開講科目

科目ナンバリング	科目名	単位数	履修条件・Prerequisite
講義系科目/Lecture Courses			
GRM601	Resource Management for Coexistence and Cultural Diversity	2	なし
GRM602	Capacity Development for Coexistence and Cooperative Works	2	なし
GRM701	Physics in daily life	2	GRM601・文系学生が履修可能
GRM702	Introduction to Social Science and Humanity	2	GRM601・理系学生が履修可能
GRM730	Introductory Infrastructure Engineering	2	GRM701・文系学生が履修可能
GRM731	Introductory Earth and Environment Science	2	GRM701・文系学生が履修可能
GRM732	Introductory Laboratory of Infrastructures	2	GRM701・文系学生が履修可能
GRM733	Introductory Qualitative Research Methods	2	GRM702・理系学生が履修可能
GRM734	Introductory Quantitative Research Methods	2	GRM702・理系学生が履修可能
GRM735	Introductory Global Studies	2	GRM702・理系学生が履修可能
実習系科目/Practice Courses			
GRM650	Group Work Practice I	2	GRM601
GRM690	Group Work Practice II	2	GRM602
GRM750	Group Work Practice III	2	GRM690
GRM751	Group Work Practice IV	2	GRM750
GRM790	Group Work Practice V	2	GRM751

GRMプログラムは科目ナンバリングと履修条件・Prerequisiteに沿って段階的に履修を進めます。

Prerequisiteとは、履修のための前提となる科目のことです。例えば、科目ナンバリングGRM701の「Physics in daily life」は、事前にGRM601「Resource Management for Coexistence and Cultural Diversity」を履修済みでないと履修できません。

## MESSAGE

現代世界の閉塞的状況を突破するためには、人間生活の物質的基盤(インフラストラクチャー)、社会的基盤、精神的基盤の3領域を統合的に扱う新領域の創造が必要である。そのために、同志社大学が長年にわたって高度な研究・教育実績を有する資源・エネルギーに関わる自然科学・理工学的知の体系と、多文化共生に関わる人文・社会科学知の体系を統合した文理融合による博士課程教育プログラムを創造する。自然科学・理工学系からは、電力、エネルギー、情報、交通、水資源管理の領域がプログラムに参加する。人文・社会科学系からは国際的に研究をリードする多文化共生、神学、人間の安全保障、紛争抑止、平和構築、開発学、政策科学、社会福祉学等の領域がプログラムに参加する中でも、イスラーム世界との共生をグローバルな多文化共生社会の課題として重視する点が特色である。

国の施策としてのグローバル・リーダーの養成を目的にしながらも、いかなるリーダー像を描くかという点については本学独自の方向性を打ち出している。ここでいうリーダーとは、既存の成功者をモデルとするものではない。また、一国の支配者を養成しようというのでもない。第一に、今の日本の閉塞的状況を打開するには、すでに少子化の著しい日本に留まっているだけでは難しい。インドネシア、ト

ルコ、中国など若年人口の層が厚い新興国において互いに切磋琢磨することで、彼らのエネルギーを肌で感じ、その中からいつかは日本の再生に貢献する人材を育てたい。それと同時に、今日の世界で最も困難な状況に直面する国や地域に暮らす人々と共に困難を打開する知恵を育み、それを実現に向かわせていく人材を養成しようとするところに、本プログラムの構想するグローバル・リーダーの姿がある。最困難国(地域)としては、本学で平和構築に取り組んできたアフガニスタン、パレスチナのガザ地区など人道の危機にある地域に焦点を当てていきたい。

履修生一人ひとりが、地球市民としての貢献を絶えず意識しながら5年間の大学院博士課程を過ごしてほしいと考えている。

博士学位をもち、持続可能な発展と多文化の共生に多様な分野で貢献する人材を育てていくことが、リーディングプログラムの人材養成の目標なのである。



プログラム・コーディネーター  
**内藤 正典**  
(グローバル・スタディーズ研究科教授)



同志社大学  
Doshisha University

高等研究教育院 <https://grm.doshisha.ac.jp>

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入  
TEL:075-251-3259 MAIL:ji-grmld@mail.doshisha.ac.jp